

旭川大学をベースとした公立大学の
設置に関するアンケート調査結果
(市民アンケート)

平成 3 0 年 ○ 月

旭川市総合政策部政策調整課

目 次

I 調査概要

1	目的	1
2	調査項目	1
3	対象者	1
4	調査方法	1
5	調査期間	1
6	回収結果	1
7	調査結果の表し方	1

II 調査項目別分析

1	性別	2
2	職業	3
3	年齢	4
4	旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する市の検討状況について	5
5	旭川大学をベースにした公立大学の設置について	6
6	旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する課題について	7
7	旭川に公立大学が設置された場合に期待することについて	8
8	ものづくり系学部の案について	9
9	意見等	16

III アンケート調査票

1	前文	19
2	添付資料	20
3	調査票	22

I 調査概要

1 目的

旭川大学をベースとした公立大学の設置について、今後の検討を進めるに当たり、広く市民の意見を把握するために実施した。

2 調査項目

Q 1	性別
Q 2	職業
Q 3	年齢
Q 4	旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する市の検討状況について
Q 5	旭川大学をベースにした公立大学の設置について
Q 6	旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する課題について
Q 7	旭川に公立大学が設置された場合に期待することについて
Q 8	ものづくり系学部の案について
Q 9	意見等

3 対象者

旭川市民のうち18歳以上の男女 3,000人。

調査対象者の抽出方法は、住民基本台帳からの層化2段無作為抽出とした。

4 調査方法

調査票の郵送によるアンケート方式

5 調査期間

平成29年11月13日～平成30年1月17日

6 回収結果

発送数：3,000人

回収数：1,000人

回収率：33.3%

7 調査結果の表し方

- ・回答率（%）の母数は、その調査項目に該当する回答者数（=N）である。
- ・未記入の人数は、調査項目ごとの未記入の人数である。
- ・百分率は少数第2位を四捨五入し、少数第1位までを表示しているため、回答率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問では、回答率の合計が100.0%を超える場合がある。

II 調査項目別分析

1 性別

回答者 987 人のうち、「男性」が 423 人 (42.9%)、「女性」が 564 人 (57.1%) であった。年代別で見ると、20 代及び 30 代で女性の回答比率が高い結果であった。

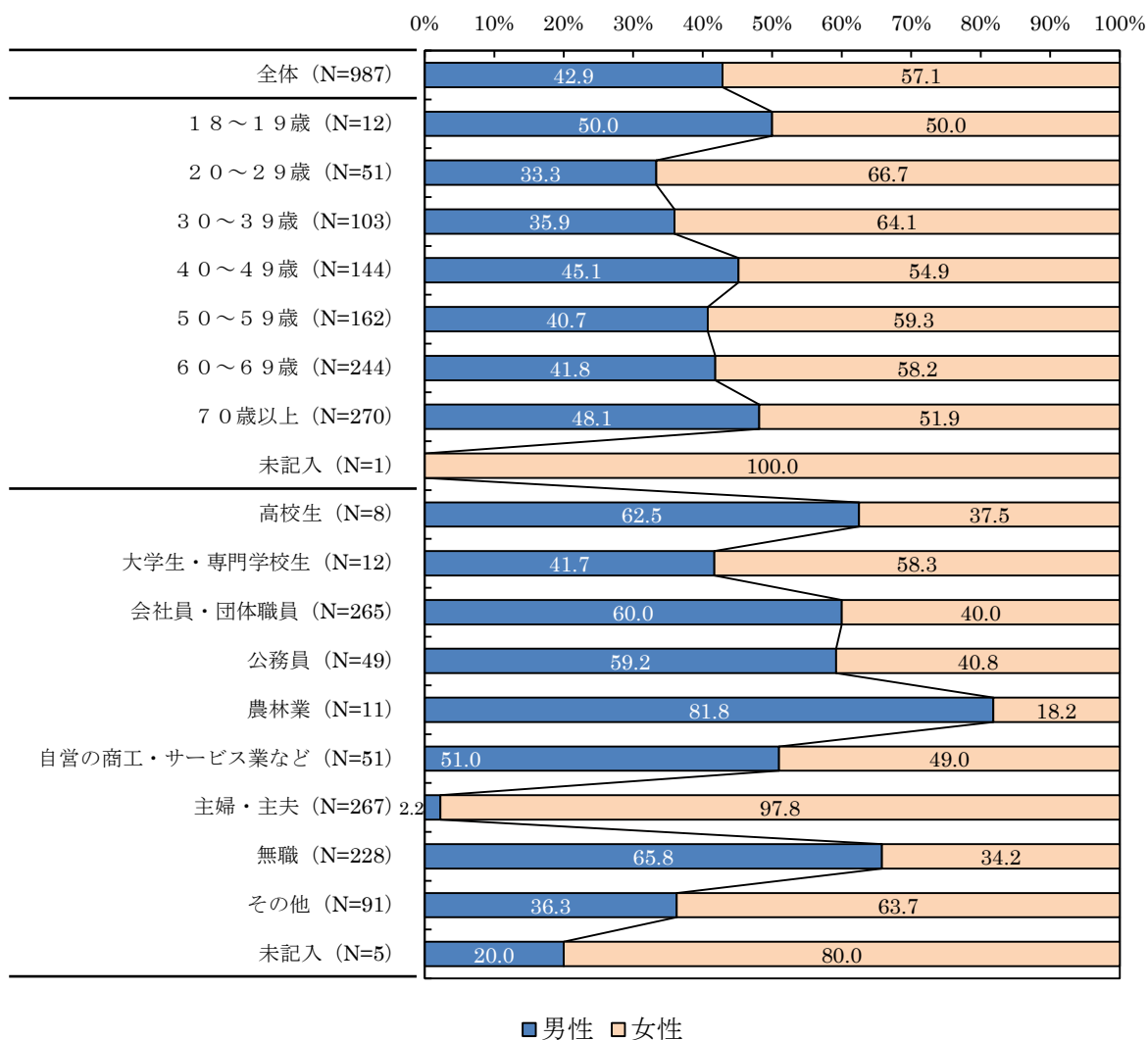
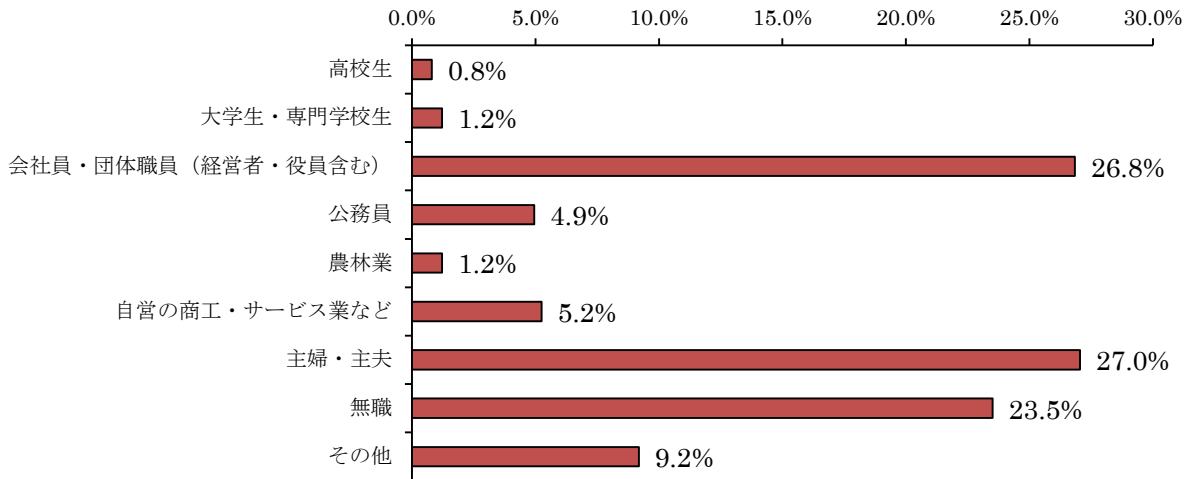


図 II - 1 性別

2 職業

回答者の職業は、「主婦・主夫」が268人(27.0%)と最も高く、次いで「会社員・団体職員(経営者・役員含む)」が266人(26.8%)、「無職」が233人(23.5%)の順であった。



図Ⅱ－2 職業(全体)

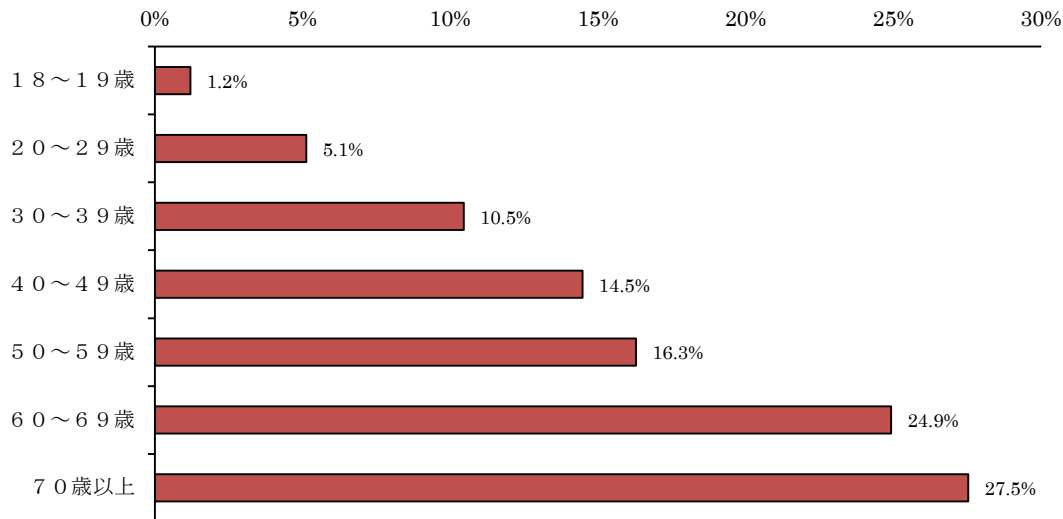
表Ⅱ－1 職業(全体, 性別, 年齢別)(単位:人)

		高校生		大学生・専門学校生		会社員・団体職員(経営者・役員含む)		公務員		農林業		自営の商工・サービス業など		主婦・主夫		無職		その他	
全体(N=991)		8	0.8%	12	1.2%	266	26.8%	49	4.9%	12	1.2%	52	5.2%	268	27.0%	233	23.5%	91	9.2%
性別	男性(N=422)	5	1.2%	5	1.2%	159	37.7%	29	6.9%	9	2.1%	26	6.2%	6	1.4%	150	35.5%	33	7.8%
	女性(N=560)	3	0.5%	7	1.3%	106	18.9%	20	3.6%	2	0.4%	25	4.5%	261	46.6%	78	13.9%	58	10.4%
	未記入(N=9)	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	1	11.1%	1	11.1%	1	11.1%	5	55.6%	0	0.0%
年齢別	18～19歳(N=12)	8	66.7%	3	25.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	20～29歳(N=51)	0	0.0%	8	15.7%	19	37.3%	5	9.8%	1	2.0%	4	7.8%	5	9.8%	4	7.8%	5	9.8%
	30～39歳(N=104)	0	0.0%	0	0.0%	48	46.2%	13	12.5%	0	0.0%	7	6.7%	25	24.0%	5	4.8%	6	5.8%
	40～49歳(N=144)	0	0.0%	0	0.0%	64	44.4%	20	13.9%	1	0.7%	5	3.5%	35	24.3%	5	3.5%	14	9.7%
	50～59歳(N=162)	0	0.0%	1	0.6%	73	45.1%	8	4.9%	2	1.2%	9	5.6%	38	23.5%	8	4.9%	23	14.2%
	60～69歳(N=246)	0	0.0%	0	0.0%	49	19.9%	3	1.2%	6	2.4%	18	7.3%	84	34.1%	56	22.8%	30	12.2%
	70歳以上(N=271)	0	0.0%	0	0.0%	11	4.1%	0	0.0%	2	0.7%	9	3.3%	81	29.9%	155	57.2%	13	4.8%
	未記入(N=1)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

3 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が274人(27.5%)と最も多く、次いで「60～69歳」が248人(24.9%)、「50～59歳」が162人(16.3%)の順であった。

職業別でみると、「会社員・団体職員(経営者・役員含む)」では「50～59歳」が73人(27.5%)と最も多い結果であった。



図Ⅱ－3 年齢(全体)

表Ⅱ－2 年齢(性別, 職業別)(単位:人)

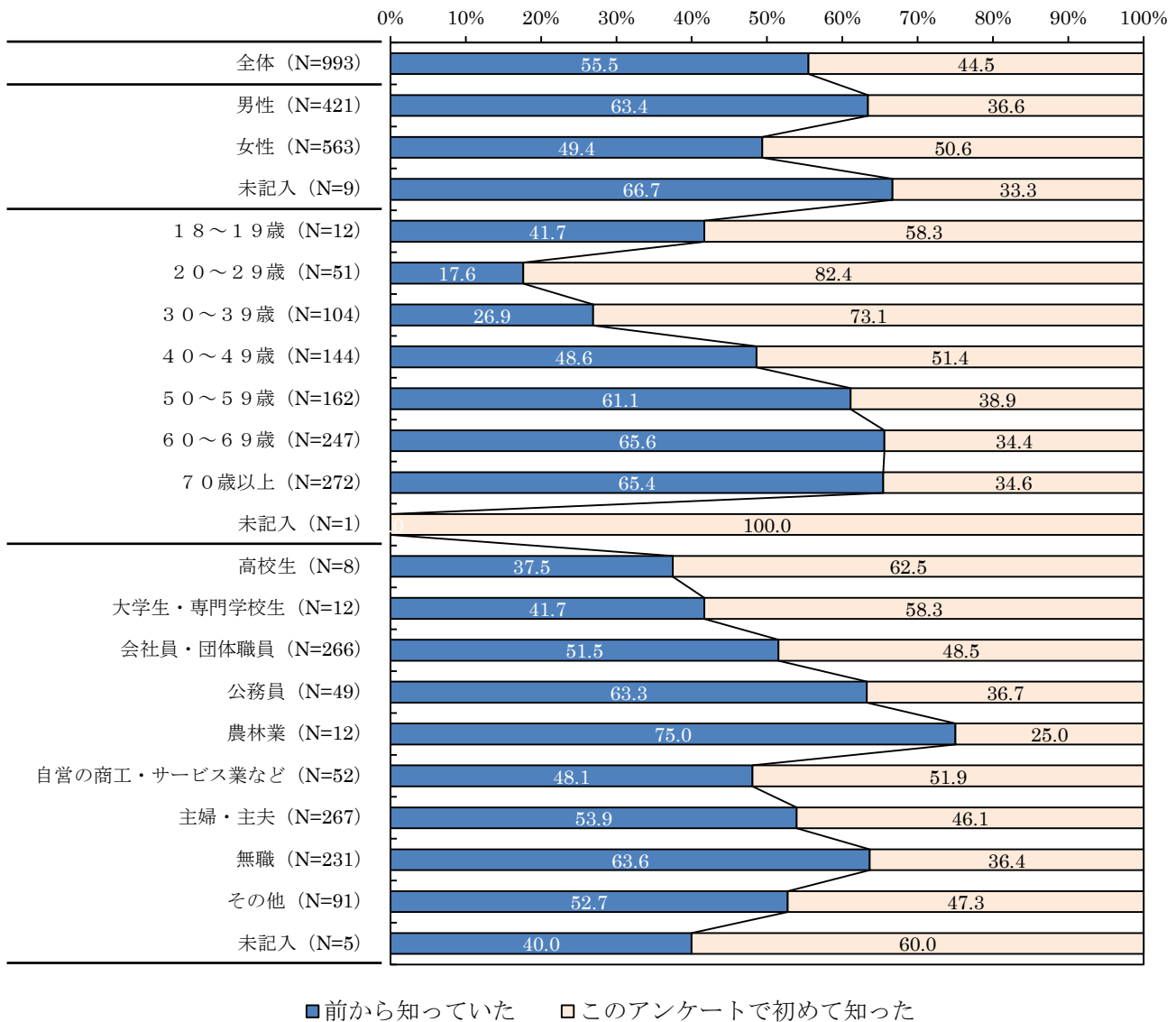
		18～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
全体 (N=995)		12	1.2%	51	5.1%	104	10.5%	144	14.5%	162	16.3%	248	24.9%	274	27.5%
性別	男性 (N=423)	6	1.4%	17	4.0%	37	8.7%	65	15.4%	66	15.6%	102	24.1%	130	30.7%
	女性 (N=563)	6	1.1%	34	6.0%	66	11.7%	79	14.0%	96	17.1%	142	25.2%	140	24.9%
	未記入 (N=9)	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	44.4%	4	44.4%
職業別	高校生 (N=8)	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	大学生・専門学校生 (N=12)	3	25.0%	8	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
	会社員・団体職員 (経営者・役員含む) (N=265)	1	0.4%	19	7.2%	48	18.1%	64	24.2%	73	27.5%	49	18.5%	11	4.2%
	公務員 (N=49)	0	0.0%	5	10.2%	13	26.5%	20	40.8%	8	16.3%	3	6.1%	0	0.0%
	農林業 (N=12)	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%	1	8.3%	2	16.7%	6	50.0%	2	16.7%
	自営の商工・ サービス業など (N=52)	0	0.0%	4	7.7%	7	13.5%	5	9.6%	9	17.3%	18	34.6%	9	17.3%
	主婦・主夫 (N=268)	0	0.0%	5	1.9%	25	9.3%	35	13.1%	38	14.2%	84	31.3%	81	30.2%
	無職 (N=233)	0	0.0%	4	1.7%	5	2.1%	5	2.1%	8	3.4%	56	24.0%	155	66.5%
	その他 (N=91)	0	0.0%	5	5.5%	6	6.6%	14	15.4%	23	25.3%	30	33.0%	13	14.3%
	未記入 (N=5)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	40.0%	3	60.0%

4 旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する市の検討状況について

Q 4 市が旭川大学をベースにした公立大学の設置を検討していることをご存知でしたか。

市の検討状況の回答については、「前から知っていた」が 551 人 (55.5%)、「このアンケートで初めて知った」が 442 人 (44.5%) と、「前から知っていた」が上回る結果であった。

50 歳以上においては、いずれの年代においても「前から知っていた」の回答割合が 50%を上回る結果とであった。



図Ⅱ－4 旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する市の検討状況

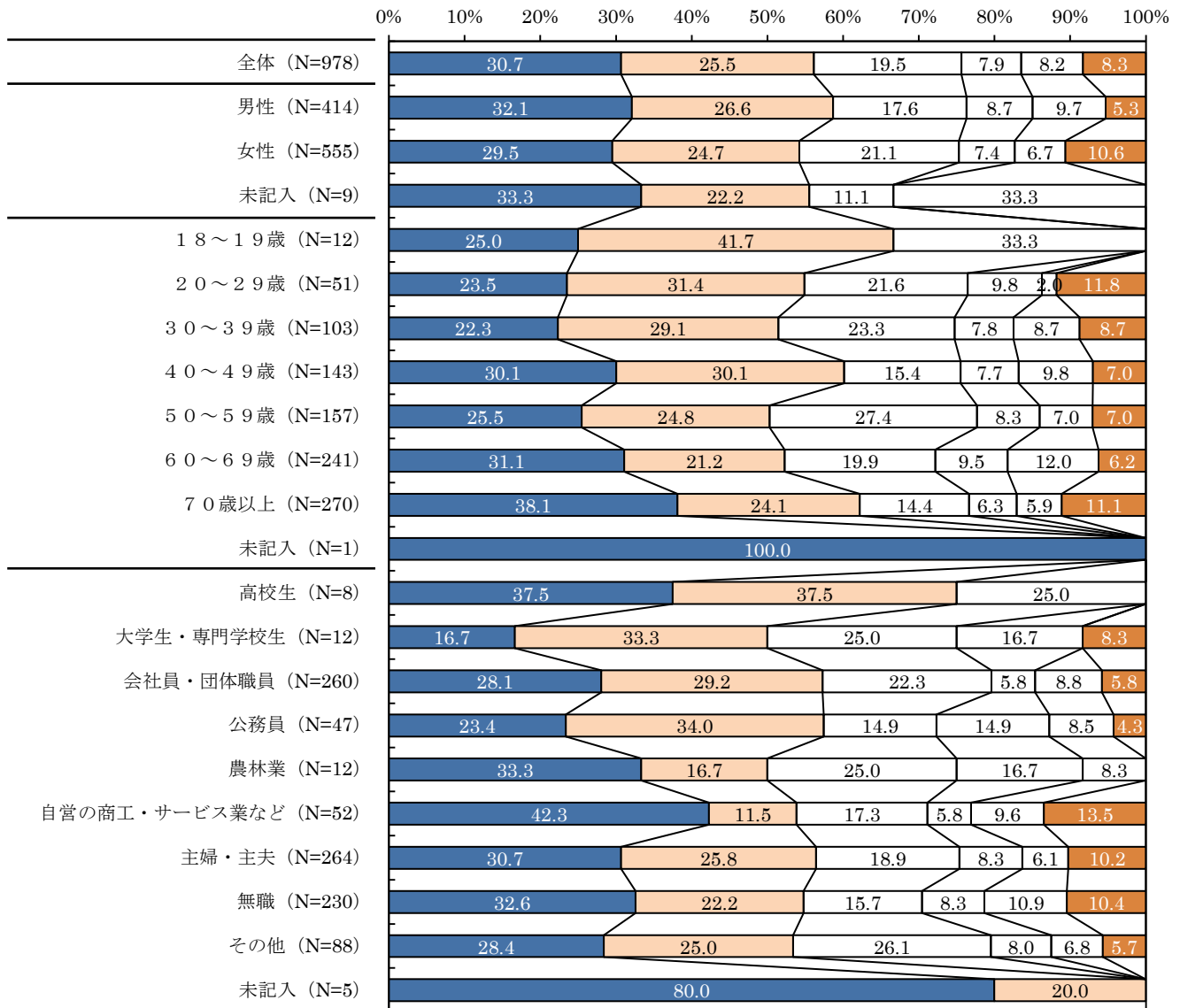
5 旭川大学をベースにした公立大学の設置について

Q 5 旭川大学をベースにした公立大学の設置についてどう思いますか。

旭川大学をベースにした公立大学の設置についての回答については、「妥当である」が 300 人 (30.7%) で、「概ね妥当である」が 249 人 (25.5%) であった。

一方、「妥当ではない」は 80 人 (8.2%)、「あまり妥当ではない」は 77 人 (7.9%) であった。

なお、「どちらともいえない」は 191 人 (19.5%) であった。



■ 妥当である ■ 概ね妥当である □ どちらともいえない
□ あまり妥当ではない ■ 妥当ではない ■ わからない

図 II - 5 旭川大学をベースとした公立大学の設置について

6 旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する課題について

Q 6 旭川大学をベースにした公立大学の設置に関しての課題は何だとお考えですか。次の中から3つまで選んでください。

旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する課題についての回答については、「少子化が進む中での学生の確保」が647人（65.3%）と最も多く、次いで「学生にとって魅力的な学部・学科の存在」が526人（53.1%）、「赤字運営時における市の財政負担」が462人（46.6%）の順であった。

表Ⅱ-3 旭川大学をベースにした公立大学の設置に関する課題について（単位：人）

		少子化が進む中での学生の確保		学生にとって魅力的な学部・学科の存在		公立大学移行時の市の財政負担		赤字運営時における市の財政負担		大学卒業後の市外への人材流出		学部内容に見合った教員の確保		課題はない		その他（具体的な内容を下に記載してください）	
全体 (N=991)		647	65.3%	526	53.1%	408	41.2%	462	46.6%	324	32.7%	182	18.4%	13	1.3%	71	7.2%
性別	男性 (N=421)	271	64.4%	222	52.7%	166	39.4%	206	48.9%	134	31.8%	76	18.1%	5	1.2%	37	8.8%
	女性 (N=561)	373	66.5%	301	53.7%	235	41.9%	253	45.1%	187	33.3%	106	18.9%	7	1.2%	34	6.1%
	未記入 (N=9)	3	33.3%	3	33.3%	7	77.8%	3	33.3%	3	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
年齢別	18～19歳 (N=12)	5	41.7%	11	91.7%	3	25.0%	3	25.0%	5	41.7%	3	25.0%	0	0.0%	1	8.3%
	20～29歳 (N=51)	29	56.9%	20	39.2%	24	47.1%	32	62.7%	13	25.5%	11	21.6%	0	0.0%	1	2.0%
	30～39歳 (N=104)	65	62.5%	52	50.0%	46	44.2%	57	54.8%	29	27.9%	19	18.3%	1	1.0%	8	7.7%
	40～49歳 (N=144)	95	66.0%	86	59.7%	59	41.0%	69	47.9%	35	24.3%	30	20.8%	2	1.4%	7	4.9%
	50～59歳 (N=162)	110	67.9%	96	59.3%	59	36.4%	68	42.0%	56	34.6%	27	16.7%	1	0.6%	17	10.5%
	60～69歳 (N=248)	161	64.9%	124	50.0%	106	42.7%	133	53.6%	86	34.7%	39	15.7%	2	0.8%	16	6.5%
	70歳以上 (N=269)	181	67.3%	137	50.9%	111	41.3%	99	36.8%	100	37.2%	53	19.7%	7	2.6%	21	7.8%
	未記入 (N=1)	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
職業別	高校生 (N=8)	5	62.5%	7	87.5%	3	37.5%	2	25.0%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
	大学生・専門学校生 (N=12)	8	66.7%	8	66.7%	4	33.3%	8	66.7%	3	25.0%	1	8.3%	0	0.0%	1	8.3%
	会社員・団体職員（経営者・役員含む） (N=266)	168	63.2%	155	58.3%	95	35.7%	128	48.1%	86	32.3%	50	18.8%	3	1.1%	19	7.1%
	公務員 (N=49)	33	67.3%	27	55.1%	27	55.1%	26	53.1%	13	26.5%	5	10.2%	0	0.0%	6	12.2%
	農林業 (N=12)	8	66.7%	8	66.7%	5	41.7%	6	50.0%	3	25.0%	1	8.3%	1	8.3%	0	0.0%
	自営の商工・サービス業など (N=52)	34	65.4%	26	50.0%	20	38.5%	28	53.8%	13	25.0%	8	15.4%	1	1.9%	1	1.9%
	主婦・主夫 (N=266)	184	69.2%	135	50.8%	116	43.6%	114	42.9%	102	38.3%	52	19.5%	2	0.8%	11	4.1%
	無職 (N=230)	150	65.2%	106	46.1%	104	45.2%	102	44.3%	70	30.4%	41	17.8%	5	2.2%	21	9.1%
	その他 (N=91)	54	59.3%	51	56.0%	32	35.2%	46	50.5%	29	31.9%	21	23.1%	1	1.1%	12	13.2%
	未記入 (N=5)	3	60.0%	3	60.0%	2	40.0%	2	40.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%

7 旭川に公立大学が設置された場合に期待することについて

Q 7 旭川に公立大学が設置された場合、何を期待しますか。次の中から3つまで選んでください。

旭川に公立大学が設置された場合に期待することの回答については、「地域が必要とする人材の育成」が612人(63.0%)と最も多く、次いで「先端技術・知識、創造能力の習得やそれに係る専門的研究」が387人(39.8%)、「地元の高校や企業との連携」が386人(39.7%)の順であった。

表Ⅱ-4 旭川に公立大学が設置された場合に期待することについて(単位:人)

		地域が必要とする人材の育成		世界でも活躍できる人材の育成		先端技術・知識、創造能力の習得やそれに係る専門的研究		内容的な資格・資格取得に力を入れる大学【具体的な資格内容】		就職に関する手厚いサポート		社会人の学び直しの場		地元の高校や企業との連携		地域の学生の入学に対する一定の配慮(地域枠の設定など)		特になし		その他(具体的な内容を下に記載してください)	
全体(N=972)		612	63.0%	141	14.5%	387	39.8%	151	15.5%	348	35.8%	181	18.6%	386	39.7%	181	18.6%	64	6.6%	69	7.1%
性別	男性(N=409)	276	67.5%	53	13.0%	172	42.1%	55	13.4%	123	30.1%	70	17.1%	175	42.8%	78	19.1%	30	7.3%	27	6.6%
	女性(N=550)	330	60.0%	82	14.9%	210	38.2%	93	16.9%	224	40.7%	110	20.0%	208	37.8%	99	18.0%	33	6.0%	39	7.1%
	未記入(N=13)	6	46.2%	6	46.2%	5	38.5%	3	23.1%	1	7.7%	1	7.7%	3	23.1%	4	30.8%	1	7.7%	3	23.1%
年齢別	18~19歳(N=12)	3	25.0%	1	8.3%	4	33.3%	4	33.3%	6	50.0%	1	8.3%	5	41.7%	2	16.7%	2	16.7%	0	0.0%
	20~29歳(N=51)	22	43.1%	5	9.8%	11	21.6%	11	21.6%	24	47.1%	9	17.6%	15	29.4%	12	23.5%	8	15.7%	0	0.0%
	30~39歳(N=103)	51	49.5%	18	17.5%	28	27.2%	18	17.5%	46	44.7%	28	27.2%	35	34.0%	24	23.3%	6	5.8%	8	7.8%
	40~49歳(N=143)	89	62.2%	26	18.2%	67	46.9%	23	16.1%	48	33.6%	31	21.7%	53	37.1%	24	16.8%	3	2.1%	10	7.0%
	50~59歳(N=157)	93	59.2%	24	15.3%	54	34.4%	20	12.7%	60	38.2%	26	16.6%	71	45.2%	30	19.1%	8	5.1%	12	7.6%
	60~69歳(N=237)	159	67.1%	28	11.8%	101	42.6%	34	14.3%	73	30.8%	46	19.4%	98	41.4%	39	16.5%	18	7.6%	25	10.5%
	70歳以上(N=264)	190	72.0%	37	14.0%	119	45.1%	40	15.2%	90	34.1%	39	14.8%	109	41.3%	50	18.9%	19	7.2%	13	4.9%
	未記入(N=5)	5	100.0%	2	40.0%	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%
職業別	高校生(N=8)	2	25.0%	1	12.5%	2	25.0%	3	37.5%	3	37.5%	1	12.5%	3	37.5%	1	12.5%	2	25.0%	0	0.0%
	大学生・専門学校生(N=12)	8	66.7%	3	25.0%	3	25.0%	2	16.7%	6	50.0%	1	8.3%	6	50.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
	会社員・団体職員(経営者・役員含む)(N=261)	163	62.5%	33	12.6%	97	37.2%	39	14.9%	100	38.3%	56	21.5%	99	37.9%	49	18.8%	14	5.4%	19	7.3%
	公務員(N=47)	29	61.7%	5	10.6%	20	42.6%	7	14.9%	17	36.2%	7	14.9%	25	53.2%	7	14.9%	2	4.3%	3	6.4%
	農林業(N=11)	6	54.5%	1	9.1%	3	27.3%	2	18.2%	2	18.2%	2	18.2%	5	45.5%	3	27.3%	1	9.1%	0	0.0%
	自営の商工・サービス業など(N=51)	29	56.9%	10	19.6%	19	37.3%	6	11.8%	18	35.3%	10	19.6%	22	43.1%	12	23.5%	2	3.9%	5	9.8%
	主婦・主夫(N=262)	176	67.2%	37	14.1%	105	40.1%	44	16.8%	112	42.7%	46	17.6%	105	40.1%	55	21.0%	10	3.8%	15	5.7%
	無職(N=223)	150	67.3%	31	13.9%	94	42.2%	34	15.2%	59	26.5%	38	17.0%	85	38.1%	33	14.8%	25	11.2%	17	7.6%
	その他(N=90)	43	47.8%	18	20.0%	40	44.4%	13	14.4%	29	32.2%	19	21.1%	35	38.9%	18	20.0%	8	8.9%	9	10.0%
	未記入(N=7)	6	85.7%	2	28.6%	4	57.1%	1	14.3%	2	28.6%	1	14.3%	1	14.3%	2	28.6%	0	0.0%	1	14.3%

8 ものづくり系学部の案について

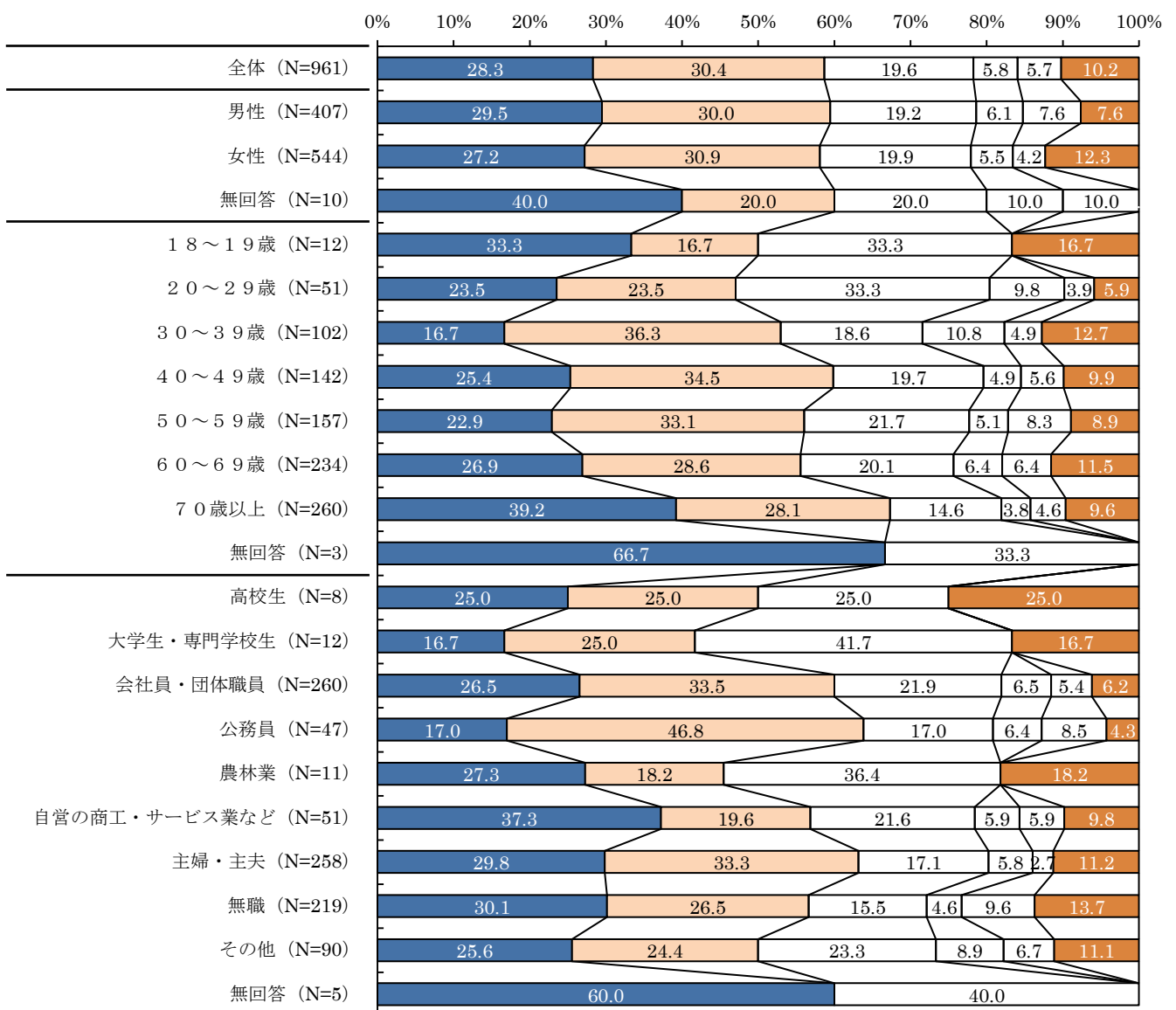
Q8 現在、市が検討している別紙のものづくり系学部の案についてどう思いますか。

ものづくり系学部の案についての回答については、全体では「良い」が272人(28.3%)で、「概ね良い」が292人(30.4%)であった。

一方、「良くない」は55人(5.7%)、「あまり良くない」は56人(5.8%)であった。

なお、「どちらともいえない」は188人(19.6%)であった。

年齢別でみると、「良い」「概ね良い」の割合は「70歳以上」が175人(67.3%)と最も高く、「良くない」「あまり良くない」の割合は「30～39歳」が16人(15.7%)と最も高い結果であった。



■良い □概ね良い □どちらとも言えない □あまり良くない □良くない □わからない

図II-6 ものづくり系学部の案について

ものづくり系学部の場合について	主な自由意見
<p>1. 良い + 2. 概ね良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが将来進学するとして、公立になることにより経済的負担減になるのがありがたい。今ある学部も良いと思うが、学部が増えることにより旭川で進学を考えた時に選択肢が増えるためとても良いと思う。旭川家具という素晴らしいものを受け継ぐ人材は必要だと思うし、これからの時代こだわりが売れるようになると思うので需要があると思う。 ・経済的理由で優秀な子どもが学べず進学を断念するのではなく、そういう家庭の子供でも学業を学べる場であってほしいと思います。楽しみにしています。どうか成功させてください。 ・若い方々が地域の課題に取り組んで下さり、地域、市、道内、全国に良いものを発進していけるような活気あふれる大学であれば嬉しいと思います。 ・個の家具作りだけではなく、住宅やマンションと一体化するようなトータルの物づくりが必要。民間建設業との協同研究も必要。 ・ものづくり系学部をつくって若い人達が旭川独自の街の活性化になるようなものを造って欲しいです。旭川ならではの産業とか商品とか明るい未来に期待したいです。 ・旭川は家具・木材のまちで有名ですが、そのものづくりに関係する専門的知識を習得できる学部・学科をつくってほしいと思います。工業デザイナーといった職業に憧れたり、広告代理店でweb操作を学んだり、…もっと具体的にまちづくりにつながるような学部の中身・資格の習得など考えてほしいな、と思います。 ・デザインだけではなく、経営などの修得、グローバル社会に適応できる人材と言うのは、旭川の今後の観光産業の発展を期待できる。 ・少子化の時代ですが、公立大学の設置が進めば子供の学びの場も広くなり、地域や日本、世界の発展の為の自立した人材育成が必要だと思いますが実現できれば良いですね。 ・1つ1つの専門分野の強化で、発想のおもしろさ、遊び心を持って行動出来る受け皿の大きさに期待です。 ・学部における人材育成像の内容は大変良いと思う。優れたクリエイターは多くいると思うが、それを経営に結びつけ、地域活性化に繋げるまでの人材育成は少子化が進む日本の多くの地で必要なことと思う。 ・旭川市だからこそできるものづくりの特色を活かして、もっと旭川が全国で輝けるものづくりができれば人口が集まり増えるのではないかと期待する。 ・より魅力のある学部を設けて札幌一極集中しないよう学生を定着させることと、旭川家具デザイン工芸産業の街として学生、将来の人材育成をすることは大切な要素である。 ・概ね良いとは思いますが、学びの場を提供するとともに、旭川市に根付いてもらわなければ、意味がないと思います。ただ、援助、優遇するだけでなく、魅力的な街づくり、市の運営が必要だと思います。 ・創造的で自律した人材を育成するためには創造的で独創的な感性を持った指導者の確保が必要だと思う。魅力の無い人間の発創はつまらないと思う。

ものづくり系学部の場合について	主な自由意見
<p>1. 良い + 2. 概ね良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川家具は、洗練されたデザイン性を武器に、海外を中心に一定の評価を得ているが、国内での認知度はかなり低い。学部設立によって、家具の発展・旭川の発信と、技術後継者の創出という win-win の意味で期待できる。一方で、自然環境・地理的環境で感性と創造力が磨かれるとは考えづらい。企業の技術者を講師としたり、国内外インターンをカリキュラムに組み込む、札幌の大学と協定を結ぶなどしたりして、堅実な感性と創造力を養う必要があると考える ・シミュレーション通りに経営する為には行政及び関係者の相当な努力が必要です。
<p>3. どちらともいえない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり系は起業活動に繋がり重要と思う。 ・若者はそもそも旭川に魅力を感じておらず学部を設置しても期待できないと思う。 ・旭川らしさをイメージさせるものが美瑛や富良野、東川などと比べてない。アイヌ文化と融合させた焼き物・織り物など、沖縄戦での尊い命を失った人々の歴史を残す施設（知覧のように、手紙などを入れるなど）などの独自の文化風土づくりが必要 ・ものづくりというあいまいな表現では、魅力を感じない。具体的に建築士を目指すとか、電気や土木など高校では学びきれない専門的な内容にしたら良いのでは。デザインとかは専門学校でいい。 ・先端技術、知識を習得する国立大学の様な大学ではなく、地域に根差した、特色のある学部、人材を育成する大学にする方向で公立化に進むべきと思います。 ・地場産業成長への施策とあわせて、ものづくり系学部の設置が必要だと思う。ものづくり系学部だけが単独で存在するのはむずかしいのではないか？ ・地域の特性に応じた各業種を学び起業家、後継者、行政職に付ける人づくりの育成も検討して見ては。 ・北欧に居住経験があります。あちらでは、雪の季節でも、街中でも、室内でも、公共交通内でも、歩行器を使用し、自立した社会生活を営む高齢者を多く見かけました。車椅子を介護者が押して歩く姿は見かけませんでした。介護観、人間観の本質から問いなおすべきかもしれませんが、それはともかく、高齢者・障害者のニーズに添う、生活機器・家具をつくる余地は、たくさんあると思います。 ・大変良い事だと思うが、勉強し卒業した人たちが力を発揮出来る職場がなければ市内にはとどまらないと思う。 ・東海大学旭川キャンパスが少子化の影響で廃止になった。同じような学部を旭川大学に設置してもどれ程の学生が集まるのか疑問だ。ものづくり系学部の卒業生が旭川で受け入れる器はどれくらいあるのか。長期的な視点に立って学部及び定員を設定して欲しい。他の地域の類似学部も参考にしては。 ・旭川市として力を入れて取り組んでいるものづくり関連の学部を作るのは独自性も出せるので、いいと思っている。ただ、どの程度その学部のニーズがあるかわからない（調査等によりニーズがはっきりしていることがわかればいい）。

ものづくり系学部の案について	主な自由意見
3. どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・これから大学を目指す中・高生から旭川大学が公立大になった時、どんな事を勉強したいかを聞き取りをしたら良いと思います。大人の意見ばかりを押し付けてはいけないと思います。 ・このような人材が育成できれば地域にとってはよいことだと思いますが、地元に着した優秀な講師はいるのか…と思いました。また、今の高校生達のニーズにもあっているのか興味はあるのか疑問に思いました。旭川家具は高いイメージがあり、市民で使用している人が少なくわからない。 ・AIが進化しても、デザイナーのような創作に関する思考はできないので、一流の工業デザイナーを育成するような学部を創設すべきである。将来人間にしかできない創作を育成する学部にすべきである。 ・現在、当市における経済活動状況はやや不活発である。景気向上への期待は大きいのですが、難しいと考えています。特にものづくりに固執せずに中核の産業から足を伸ばして数年先には目標設定して、知恵を出しあってはどうか…。 ・イメージが今一つわからない感じがします。ただ今の旭川に何が必要なのか、どういう街にしたいのかを具体的にすればより理解が得られると思います。とにかく、地域と連携して、新たな展開を進められる学部であってほしいです。学生は資格を求めますが、それだけでなく、チャレンジする人材を育成！ ・ものづくりの開設について、学生、大学の負担は企業の協力を得られるのか。大学経営に問題点にならないか？
4. あまり良くない + 5. 良くない	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が続く今、費用が生じる上で新たな公立大設立に意味があるか疑問。また設立するなら駅の近くなど交通への配慮も検討願う。 ・学生数 1,000 人なんて集まらない、定員 400 人（1 学年 100 人）の少数で質の高い専門性を目指すべき ・ものづくりであれば高専の大学化を目指したらどうか。そこに木工・デザインも加えるのが良く、国立がいい。 ・高等技術専門学校があるので、大学にそのような学部がなくても良い。学生も集まらないと思います。 ・旭川東海大学の芸術工学部が閉鎖したことを考えるとデザイン等の学部では学生の確保が難しいのではないかと思います。サイバー大学のようなネットビジネス。ITマネジメント等の高度IT人材の育成を目指す学部の設置に期待します。 ・デザイン系学部は、数年前から札幌公立大学、教育大の再編で岩見沢校に設置している例があるが、旭川公立大学において果たして魅力的な学部になるのだろうか。かつて東海大学旭川校にもデザイン系学部はあった。ものづくりという視点は、経営、経済の学部を充実させ、地域都市の経済の発展、国際的に向けての活性化、人材育成は重点をおくことが旭川において必要だと思う。

ものづくり系学部の案について	主な自由意見
4. あまり良くない + 5. 良くない	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食糧基地として農業経営支援等で考えられないか ・学部のイメージ、学部における人材育成等に漠然としていて必要性が伝わってこない。公立大学にしてまでも設置したい（すべき）学部であるのか？東海大学が閉校になったことから、似たような学部を設置したいように見える。「ものづくり」よりも高齢化社会に向けての人材育成と学科の設立なら賛成できる。 ・養成予定のものづくり専門課数に見合う就職先の確保が保証されているのだろうか。
6. わからない	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な発想でグローバルに活躍できるのはすごくよいことだと思います。でも、それを地元や北海道でも生かせる職場や環境も必要かなと思います。クリエイティブな会社は都会にあるイメージです。 ・専門的な知識の高い人材育成には賛成します。卒業後、地域への就職率を上げるためのさらなる検討が必須と思います。 ・何か特化した独自のもの、思いもよらなかったものができると、旭川大学でなければできないものであれば集中して進めてもらいたい。 ・ものづくり系の内容、何に特化していくのか？ ありきたりなモノだとすぐにダメになる。しっかりと将来につながる体系づくりが必要かと。やるなら50年100年続くモノを。情報公開等アウトプットの部分をしっかり。 ・旭川は家具のまちであるのに、家具の学校がないのはなんだかと思います。せっかく豊かな自然があるので、家具以外に農業や家などをDIYする学科、リモートワークのためにグラフィック製作などが学べる学科があるとよいかと ・学生数が継続的に集めることが出来るか疑問。国内ばかりではなく海外から確保しなければならぬと思うし、そのための学部学科等、教員の確保など考えなければと思う。 ・将来どんな仕事をしたい人がこの学部を選ぶのかわからない。少子化の中学生が集まるのか？ ・より赤字体質を拡大するだけなのではないか。需要があるのか不明。

なお、Q5で「旭川大学をベースにした公立大学の設置」について回答した人及びQ8で「ものづくり系学部の案」について回答した人がそれぞれ、公立大学設置の課題だと思うものは以下のとおり。

「旭川大学をベースにした公立大学の設置」においては、「妥当である」と回答した人の中では「学生にとって魅力的な学部・学科の存在」が204人（68.0%）と最も多く、「妥当ではない」と回答した人の中では「赤字運営時における市の財政負担」が62人（77.5%）と最も多い結果であった。

「ものづくり系学部の案」においては、「良い」と回答した人の中では「少子化が進む中での学生の確保」が182人（66.9%）と最も多く、「良くない」と回答した人の中では「赤字運営時における市の財政負担」が36人（65.5%）と最も多い結果であった。

表Ⅱ－5 旭川大学をベースとした公立大学の設置に関する課題について
(Q5及びQ8回答者別) (単位：人)

		少子化が進む中での学生の確保		学生にとって魅力的な学部・学科の存在		公立大学移行時の市の財政負担		赤字運営時における市の財政負担		大学卒業後の市外への人材流出		学部内容に見合った教員の確保		課題はない		その他（具体的な内容を下に記載してください）	
Q5 回答者全体 (N=978)		647	66.2%	526	53.8%	408	41.7%	462	47.2%	324	33.1%	182	18.6%	13	1.3%	71	7.3%
旭川大学をベースにした公立大学の設置について	妥当である (N=300)	193	64.3%	204	68.0%	89	29.7%	90	30.0%	105	35.0%	66	22.0%	4	1.3%	14	4.7%
	概ね妥当である (N=249)	171	68.7%	152	61.0%	91	36.5%	122	49.0%	97	39.0%	54	21.7%	0	0.0%	13	5.2%
	どちらともいえない (N=191)	129	67.5%	99	51.8%	83	43.5%	102	53.4%	60	31.4%	31	16.2%	1	0.5%	13	6.8%
	あまり妥当ではない (N=77)	57	74.0%	21	27.3%	51	66.2%	51	66.2%	17	22.1%	7	9.1%	1	1.3%	6	7.8%
	妥当ではない (N=80)	44	55.0%	14	17.5%	58	72.5%	62	77.5%	17	21.3%	8	10.0%	1	1.3%	16	20.0%
	わからない (N=81)	39	48.1%	25	30.9%	28	34.6%	27	33.3%	23	28.4%	12	14.8%	6	7.4%	7	8.6%
Q8 回答者全体 (N=961)		647	67.3%	526	54.7%	408	42.5%	462	48.1%	324	33.7%	182	18.9%	13	1.4%	71	7.4%
ものづくり系学部の案について	良い (N=272)	182	66.9%	173	63.6%	85	31.3%	100	36.8%	97	35.7%	60	22.1%	5	1.8%	11	4.0%
	概ね良い (N=292)	200	68.5%	161	55.1%	119	40.8%	145	49.7%	106	36.3%	54	18.5%	0	0.0%	13	4.5%
	どちらともいえない (N=188)	118	62.8%	100	53.2%	92	48.9%	99	52.7%	58	30.9%	34	18.1%	2	1.1%	13	6.9%
	あまり良くない (N=56)	33	58.9%	18	32.1%	32	57.1%	39	69.6%	14	25.0%	10	17.9%	1	1.8%	6	10.7%
	良くない (N=55)	32	58.2%	16	29.1%	33	60.0%	36	65.5%	9	16.4%	7	12.7%	1	1.8%	14	25.5%
	わからない (N=98)	58	59.2%	38	38.8%	41	41.8%	37	37.8%	27	27.6%	12	12.2%	3	3.1%	7	7.1%

また、Q5で「旭大ベースの妥当性」について回答した人及び「ものづくり系学部の案」について回答した人がそれぞれ、公立大学に求めるものは以下のとおり。

「旭川大学をベースにした公立大学の設置」においては、「妥当である」と回答した人の中では「地域が必要とする人材の育成」が198人(66.0%)と最も多く、「妥当ではない」と回答した人も同様に25人(31.3%)と最も多い結果であった。

「ものづくり系学部の案」においては、「良い」と回答した人の中では「地域が必要とする人材の育成」が193人(71.0%)と最も多く、「良くない」と回答した人の中では「特にない」が20人(36.4%)と最も多い結果であった。

表Ⅱ－6 旭川に公立大学が設置された場合に期待することについて
(Q5及びQ8回答者別)(単位:人)

		地域が必要とする人材の育成	世界でも活躍できる人材の育成	先端技術・知識、創造能力の習得やそれに係る専門的研究	資格取得に力を入れる大学【具体的な資格内容…】	就職に関する手厚いサポート	社会人の学び直しの場	連携	地域の学生の入学に対する一定の配慮(地域枠の設定など)	特にない	その他(具体的な内容を下に記載してください)
Q5回答者全体(N=978)		612 62.6%	141 14.4%	387 39.6%	151 15.4%	348 35.6%	181 18.5%	386 39.5%	181 18.5%	64 6.5%	69 7.1%
公立大学をベースにした旭川大学の設置について	妥当である(N=300)	198 66.0%	47 15.7%	127 42.3%	60 20.0%	122 40.7%	47 15.7%	107 35.7%	61 20.3%	1 0.3%	16 5.3%
	概ね妥当である(N=249)	178 71.5%	38 15.3%	109 43.8%	34 13.7%	88 35.3%	56 22.5%	123 49.4%	53 21.3%	1 0.4%	14 5.6%
	どちらともいえない(N=191)	112 58.6%	23 12.0%	72 37.7%	29 15.2%	74 38.7%	34 17.8%	79 41.4%	35 18.3%	15 7.9%	13 6.8%
	あまり妥当ではない(N=77)	45 58.4%	14 18.2%	25 32.5%	9 11.7%	18 23.4%	13 16.9%	30 39.0%	12 15.6%	11 14.3%	4 5.2%
	妥当ではない(N=80)	25 31.3%	9 11.3%	24 30.0%	8 10.0%	13 16.3%	14 17.5%	15 18.8%	6 7.5%	22 27.5%	13 16.3%
	わからない(N=81)	39 48.1%	6 7.4%	19 23.5%	9 11.1%	25 30.9%	12 14.8%	26 32.1%	11 13.6%	14 17.3%	4 4.9%
Q5回答者全体(N=961)		612 63.7%	141 14.7%	387 40.3%	151 15.7%	348 36.2%	181 18.8%	386 40.2%	181 18.8%	64 6.7%	69 7.2%
ものづくり系学部の案について	良い(N=272)	193 71.0%	44 16.2%	134 49.3%	43 15.8%	102 37.5%	50 18.4%	113 41.5%	52 19.1%	2 0.7%	16 5.9%
	概ね良い(N=292)	209 71.6%	43 14.7%	125 42.8%	41 14.0%	119 40.8%	64 21.9%	133 45.5%	50 17.1%	4 1.4%	17 5.8%
	どちらともいえない(N=188)	112 59.6%	24 12.8%	61 32.4%	31 16.5%	69 36.7%	27 14.4%	79 42.0%	41 21.8%	14 7.4%	10 5.3%
	あまり良くない(N=56)	27 48.2%	10 17.9%	22 39.3%	13 23.2%	18 32.1%	15 26.8%	22 39.3%	11 19.6%	4 7.1%	4 7.1%
	良くない(N=55)	18 32.7%	7 12.7%	10 18.2%	8 14.5%	10 18.2%	6 10.9%	11 20.0%	8 14.5%	20 36.4%	12 21.8%
	わからない(N=98)	43 43.9%	10 10.2%	31 31.6%	14 14.3%	28 28.6%	15 15.3%	26 26.5%	17 17.3%	19 19.4%	8 8.2%

9 意見等

Q9 旭川大学をベースにした公立大学の設置などについて、御意見がありましたら記入してください。

主な自由意見

【検討状況に関すること】

- ・必要。旭川は現在少子化の影響及び社会的流出による人口減少の傾向が続くことになりえますので、公立大学設置による学生増加と大学関連産業の企業増等による人口の社会的増加が期待できます。
- ・魅力ある大学であれば人・金の課題は解決できると思うが、長期的視点が必要になると思います。目先のことにとらわれ、質の低下を招くことのないようお願いしたい。
- ・なぜ旭川大学をベースにする必要があるのか。ほとんどの学科で定員割れをしている大学をベースにするのではなく、全国の大学に目を向けて、収支や卒業後の就職等で成功し、軌道に乗っている大学をベースにして真剣に公立大学の設立を考えるべき。旭川だから旭川大学をベースにするというのは、設立の上では必要ないと思う。
- ・全国的に少子化が進み、地方都市から大都市へと若者が職を求めて定住する中、今から旭川大学の公立化やものづくり大学をつくることは学生募集、就職先の面から将来経営が厳しくなるはず。旭川市内の若者は誰でも入学出来、農業・観光・職人等の学部を設け近隣町村や試験場等と一緒に大学を運営して欲しいです。それと、責任者を明確にして欲しいです。
- ・公立大学設置ありきで話を進めているように思えます。もうすこし魅力ある大学について考えてほしいと思います。魅力ある大学、魅力ある街でなければ人が集まらないし、人が留まらないと思います。
- ・そもそも旭川大学の経営難を理由に公立化を推進しようとするのはおかしいと思う。充足率が100%に満たない学部、学科の組織を見直したり、学生の質、教育の質の向上を図ることが先決ではないかと思う。就職者の地元定着率が低ければ、公立化する意味はない。
- ・地域内の意見集約だけではなく、道外等のアドバイスを求め期限設定し、スピード感をもって対応してほしい。
- ・中学生や高校生の意見を反映し、旭川大学へ入学したくなる魅力などを参考にしなければ将来的なことにはならないと思います。

【運営に関すること】

- ・経営を安定させるためにも、地域・国内だけではなく国外にも目を向けることが必要。
- ・市の将来構想、財政を考えると、公立大学設置する場合、運営は、学校法人等が良いと思います。
- ・考え方は良い。これからの人材育成には必要だと思う。しかし、経営面からは定員確保が出来ない場合の不安が残り、その分が市の財政や市民の負担にならないか心配。経営シミュレーションはしっかりとしていただきたい。
- ・浅い考えで5年10年つぶれるようなことはやめてほしい。本気で将来を見ずえて地域を巻きこんでやってくれるなら応援はしたい。
- ・100%になってのシミュレーションは甘いと思います。経営陣を総入れ替えするなら考えても良いかなと思います。

主な自由意見

- ・短期大学部も含めて公立にするのは規模から見て難しいと思う。しかし、短期大学部の学科は魅力的だと思うし、市内企業の定着率も高いようなので悩ましい。
- ・大学よりも最低所得の人達の事を先に考えるべき。子供がいる人達ばかり得をするのはおかしい。もう少し何にお金を使えば良いのか考えてほしい。

【公立大学への期待に関すること】

- ・素敵な内容でした。数少ない子供達の為に先に生まれた大人が助けてあげたいですね。
- ・学生の金銭的負担の軽減や、公立大学卒となり自信にもなる気がします。観光だけでなく、暮らしてみたいと思われる、住みやすい市になって欲しいです。
- ・私立大学だったこれまでと比べて公立大学になることで進学しやすさ、家庭への負担は軽減して良いと思う。しかし旭川市がどこまで負担できるのか、他の事業への影響が心配です。
- ・現在の私達の問題でも有りますが、収入（親）の差で大学に進めない状況などが努力とやる気があれば学ぶ機会が与えられるような大学の存在であると嬉しいです。そして新しいもの作りが広がっていけるよう住民もふくめて市が考えながら大学を新しくして頂けたら良いと考えます。
- ・少ない学費の負担で、学生が集まる時代ではないと思います。
- ・公立大学の1教室でも良いので60才以上の私達にも学びの機会を与えていただきたく思います。大学に行きたくても行けず残念に思っております。学生と一緒に学べるともっと良いです。

【学部に関すること】

- ・現在、旭川にある大学の学部にはない、学部をつくってほしいです。大学卒業後の就職先は必ずしも地元こだわらず、様々な経験を積むのに外に出てもいいと思います。公立大学にすることで、大学に通える人たちも沢山いると思います、ぜひ本格的に検討してほしいです。ものづくり大学にむけた学部の新設を希望しますし、もし機会があれば、学生生活をもう一度やりなおしたいです（夢ですが…）。
- ・旭川医大、教育大以外の公立大学の設置は子育て世代の保護者として、選択肢が広がることを嬉しく思います。グローバル社会に適応するためにはIT、プログラミング等のスキルが不可欠だと思います。既存の学部についても、介護ロボット、お料理ロボット等、人間のアクションを全てAI化するようなスキルを身につけられるような大学にしてもらえたらと思います。
- ・高校卒業後の進学の選択肢が少ない旭川にとって公立大学の設置は必要のように思います。さらに、大学卒業の就職の選択肢も増やしていかなければ、優秀な人材が流出してしまうので、そちらも同時に考えなければならないと思います。
- ・旭川市外からも多くの学生があつまる大学になれば良いなと思います。企業や行政、高校と連携を図って注目を集められるような取組ができれば面白いなとも思います。難しいと思いますが、先を見据えて中心部に移設してほしいです。
- ・社会人になってからの人材の確保を含め、市内で自由に学ぶ形が選択できるといいと思う。大学に進学する時点で市外へ流出してしまうケースが多いと感じる。（現時点で自分の子も市内の大学へ進学する魅力があまり感じられない。）

主な自由意見

- ・現在、保健看護学科以外定員割れしているようなので、もっと定員を増やし看護師になりたい人を育てるようにするのも良いと思う。東海大跡地を使用するというのも有りと思う。若者が集まるのは良いことだと思う。
- ・福祉系公立は、名寄大学にもあるため、公立学部で必要かの検討、又、就職先・就職後の給与（働き方）の実際把握や指導（施設）等も検討をお願いします。
- ・現在ある介護福祉科は赤字になっても残すべきである。高齢者は今後ますます増えるが少子化より社会で介護していくのは非常に困難となる。もし、旭川大学の介護福祉科がなくなれば良いケアはますます提供されなくなると考えます。その点配慮の上、公立設置して、又、同時に奨学金など活用している学生が地元就職するとメリットがあるように考えてほしいと思います。
- ・社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士と市内に足りていません。現保健福祉学部、現生活福祉専攻で定員割れを起こしている現状は、福祉は稼げないといった先入感や世論が強いと思います。やりがいや奥深さ、社会的地位向上に向けた取り組みや、教育が必要と感じます。公立化の際は現状の学部にも質向上に向けた取り組みを、是非お願い致します。
- ・ものづくり系学部を柱とするのであれば、道外からも入学者を集められるレベルの高い教育が受けられるようにすることを希望します。
- ・公立大学になると安いし近いしとても良いと思うが、あえてものづくり系学部はいらないと思う。資格取得重視した学科にしてほしい。
- ・現在の学部がなくなるのは疑問。

【旭川大学への期待などに関すること】

- ・旭川大学も資格取得などで、就職してからの評判も良い様です。先生方も大学、短大を含め親切だし、図書館なども使用させてくれ永山地域では大変いいと思います、これを他の地区にも知らせ（街中や東光などの全地域）、公立大は必要であると思います。いざ公立大となると現在の学生のこともあり、すぐにはいきませんが近い将来は他地域から学生を呼ぶことにつながりできるのを我々は楽しみに待っております。
- ・もっと旭川にはいろいろなことをやってみたいと思う人がたくさんいると思います。ものづくりや農業に関わらず音楽や美術なども学生も市民も一緒になって、ものづくり、まちづくり、旭川から発信する文化を楽しめるまちになるために、旭川大学が先手を切ってくれると嬉しいです。
- ・私立大学でも偏差値が高く魅力的であれば行きたいと思う。まして、公立大学であれば授業料が安いこともありもっと行きたいと思う。最近、文科省は私大の学部の切り売りを認めたようだが、旭川大学は公立化を目指す前に大学の再編成をするべきだと思う。公立大学にするメリットはないと考える。

旭川大学をベースとした公立大学の設置に関する アンケート調査の実施について

現在旭川市では、人口減少が進む中においても、活気があるまちづくりを進めていくために、旭川大学をベースにした公立大学の設置に関して、有識者の方々から様々な御意見をいただきながら検討を行っております。

公立大学は私立大学に比べて、少ない学費の負担で学ぶことができ、また、旭川に公立「ものづくり大学」の開設を目指す市民の会から要望されている内容などを踏まえて、デザインから経営まで幅広い分野を学ぶことができる学部等を新設することで、進路の選択肢が広がり、また、多くの若者でまちが賑わい、地域経済の活性化や地域が必要とする人材の育成・供給にもつながるといった効果が期待でき、意義がある取組であると考えております。

一方、旭川大学をベースに公立大学を設置した際には、新学部の設置に伴い、新たな費用が一定程度生じる可能性があり、また、公立大学の運営に当たっては、入学金や授業料などのほか、学部や学生数を基に国から市に交付される地方交付税等で運営していくこととなりますが、18歳人口が減少する中では、学生数を確保し続けることができなければ、大学の運営は厳しくなることが見込まれます。このため、学生が学びたいと思うような魅力的な大学であることが必要です。

こうしたことから、市として今後の検討を進めていくに当たりまして、広く市民の皆様から御意見を頂きたくアンケート調査を実施することとしましたので、大変お手数ですが、添付しております資料を御一読いただいた上で、アンケートに御回答くださいますようお願いいたします。

1 回答方法

同封しております返信用封筒（切手不要）に、記入済みのアンケート用紙を入れていただき、11月28日（火）までに返送してください。

2 問い合わせ先

旭川市役所 総合政策部 政策調整課

電話：0166-25-5358

Mail：seisakuchosei@city.asahikawa.lg.jp

①旭川大学の学部・学科の概要について

旭川大学は、2学部のほか短期大学部と大学院を有しています。各学部・学科の概要及び平成29年度時点における収容定員・現員、定員充足率等は以下のとおりです。

旭川大学をベースとした公立大学の設置に関するアンケート調査 添付資料

学部	学科	学科等の概要	H29年5月1日時点における定員等	卒業生の就職率	就職者の市内企業定着率
経済学部	経営経済学科	S43(1968)年の大学開学以来ある学部です。グローバルな視野とローカルな視点を兼ね備え、地域でフィールド調査を行うなど生きた経済に触れ、実践的に学ぶことを重視し、地域で活躍できる人材を育成します。	定員：400人 現員：327人 充足率：81.8%	90.1%	43.8%
保健福祉学部	コミュニティ福祉学科	国家資格である「社会福祉士」「精神保健福祉士」の取得をめざし、地域社会の中で生きづらさを抱えている人や困難な状況にある人たちに寄り添い、支援し、地域のまちづくりに貢献できる福祉の専門家を育成します。	定員：180人 現員：107人 充足率：59.4%	94.2%	33.0%
	保健看護学科	国家資格である「看護師」「保健師」の取得をめざし、地域で暮らす誰もが健康な毎日を送れるように、多様な看護の役割やさまざまな場面でのニーズに応えることのできる保健・医療のエキスパートを育成します。	定員：240人 現員：270人 充足率：112.5%		
短期大学部	生活学科 生活福祉専攻	国家資格である「介護福祉士」の取得をめざし、日常生活を送ることに困難がある高齢者や障がいがある方に心身の状況に応じた介護を行い、生きがいをもって毎日過ごせるようにサポートができる専門家を育成します。	定員：100人 現員：42人 充足率：42.0%	96.4%	60.4%
	生活学科 食物栄養専攻	国家資格である「栄養士免許」が卒業と同時に取得できます。病院や福祉施設、給食センター、保育所などで食事の管理と栄養指導を行う食のスペシャリストを育成します。田植えから収穫まで行う農業体験実習もあります。	定員：100人 現員：99人 充足率：99.0%		
	幼児教育学科	国家資格である「幼稚園教諭2種免許」と「保育士」が卒業と同時に取得できます。子どもの心を理解し寄り添うことができる保育者をめざし、地域での豊富なボランティア体験や実習を通して、人間性や実践力を養います。	定員：200人 現員：177人 充足率：88.5%		
大学院	地域政策研究科	地域を担う人材の実践的な育成を目的に、在職者の方にも通学しやすいよう昼夜開講制で研究の場を提供しています。H29からは地域と関わりがより明確となるよう、研究科の名称を「地域政策研究科」に変更しました。	定員：14人 現員：9人 充足率：64.3%	-	-

※就職率は、平成29年3月に卒業した学生の数値ですが、未就職者の中には大学院等への進学者も含まれます。

②旭川大学の地域に関わる活動事例について

まちづくりに関わる事業

- 豊岡まちづくり推進協議会との交流事業
～地域コミュニティの活性化と住民交流の増大を目指した地域活性化イベントに参加し、世代間交流を促進。
- 世代間交流事業「むかし遊びを楽しもう」
～永山支所や社会福祉協議会等と協働し、大学近隣の地域に居住する高齢者と子どもたちの交流を促進。
- 7条緑道「まちなかキャンパス」事業
～月に1回程度オープンセミナーを開催し、研究成果を発表するとともに交流会を開催。
- 旭川市委託事業「私の未来プロジェクト」
～命の大切さや、親となることの意識を育む機会を出前講義や体験実習による提供。
- 世界にひとつだけの、「君の椅子プロジェクト」
～新しい生命誕生の喜びと幸せを地域で分かち合うため、生まれてきた子ども達に椅子を贈る取組を実施。

まちの分析

- 旭川市と近隣8町の商業構造分析
～小売業に着目し、統計分析や聞きとり調査から、近隣8町における旭川市の果たす役割を研究。
- OAE(あえる)事業
～週末や平日の夜に、市民を対象にした、コミュニティ福祉や経済経営等の身近なテーマや直面する問題を取り上げた講座を毎年開催。
- 旭川大学地域研究所による研究
～地域課題の調査研究のほか、地域再生研究会やシンポジウムの開催など、地域の発展に貢献する取組を実施。
- 冊子「アプカシズム」発行
～旭川中心街の10本の中小路を取材し、「歩いて旭川らしさを」知る冊子を発行し、中小路のノスタルジックな魅力を電子書籍で発信。

③ものづくりデザイン系学部について（検討中）

学部における人材育成像

学部のイメージ

旭川が有する地理的環境や自然環境、旭川家具をはじめとする産業基盤など、豊富な地域資源をフィールドとして活用しながら、感性と創造力を磨き、変化の激しい社会の中でも新たな発想でものごとを創造することができる特色ある学部の設置を検討しています。

- デザインから経営などの幅広い分野の修得により、創造的で自律した人材を育成します。
- 地域が抱える様々な課題を発見し、多角的かつ複合的にアプローチし、柔軟な発想を持って解決策を導ける人材を育成します。
- 国内のみならず、世界に目を向けることのできる広い視野と深い洞察力を備え、グローバル社会に適応できる人材を育成します。

④経営シミュレーションについて

右の表は、現在の旭川大学を公立化した場合の経営状況をシミュレーションしたものです。

〈前提条件〉

- ・公立化した以降の学生数は、平成28年度の大学と短大を合わせた定員数1,254人（定員充足率が100%）となった場合をn年度として試算しています。
- ・入学金や入学検定料、授業料については、道内の他の公立大学や類似の公立短大の額などを基に設定し、経常費補助金については、現在の旭川大学と短大の学科を基に国から市に地方交付税として交付される額と同額を、市から大学に対して交付することを想定しています。
- ・支出については、平成28年度の大学と短大を合わせた額と同額としています。

〈シミュレーション結果〉

平成28年度決算の収支がマイナス約9,100万円だったものが、公立化した場合のn年度ではプラス約3億5,000万円となると見込まれます。

項目	公立化前	公立化後
	平成28年度	n年度
入学定員充足率	81.1%	100.0%
学生数(人)	1,018	1,254
学生納付金(千円)	1,056,657	918,943
手数料(千円)	15,214	8,912
経常費補助金(千円)	256,544	844,116
その他(千円)	54,151	54,151
教育活動収入計(千円)	1,382,564	1,826,200
教育活動支出計(千円)	1,473,646	1,473,646
収支差額(千円)	▲91,083	352,475

※千円未満切り上げのため、合計が一致しない場合があります。

参 考

⑤市への要望書提出の経過について

日付	内容等
平成23年11月	旭川に公立「ものづくり大学」の開設を目指す市民の会から要望書提出（要望要旨） 豊かな自然を有する旭川地域の独自性を強く打ち出し、デザイン、木工芸、建築関連、金属工芸、農業、食品関連産業など、広く「ものづくり」を建学の精神に据えた公立大学開設に向けて具体的にご検討いただけますようお願い申し上げます。
平成24年11月	旭川に公立「ものづくり大学」の開設を目指す市民の会から要望書提出（要望要旨） 平成25年度の旭川市予算に公立「ものづくり大学」についての調査費を計上し、議論の場をつくって下さい。
平成25年2月	旭川大学から要望書提出（要望要旨） 旭川市におかれましては、公立大学設置を検討するに当たって、本学園が有するこれまでの大学経営と実績を評価された上、道北の中核市として次世代のための新たな大学の在り方を本学園と共に再創造するための協議をさせていただくことを要望するものです。
平成28年2月	旭川大学から要望書提出（要望要旨） 旭川市長におかれましては、かかる本学園の置かれた状況、使命と役割にご理解と共感をいただき、旭川大学の公立大学法人化を推進くださいますようお願いするものです。

